

ツルの里づくりで
地域活性化も目指します!



米のブランド化への取り組み検討会

四 万十つるの里づくりの会では、地域の基幹産業の一つである農業を守ることでツルのえさ場・ねぐらを維持し、地域の活性化にも役立てようと考えています。そこで、兵庫県豊岡市で「コウノトリ育む農法」による地域で収穫される米のブランド化に尽力した西村いつき氏を講師に招いての検討会を実施しています(3回開催)。

平成23年11月19日には、第2回目の検討会を開催しました。高知県や四万十市の農業担当課の職員らを含むつるの会の会員は、第1回会議で出された「自分たちの地域からイメージする自慢できるもの」を活かしていく方法について意見交換。「皆で共有できるような明確な目標が必要。その目標のもと、各主体ができることに取り組んでいく必要がある」という結論に至りました。

西村さんからは、「関係各者の組織の特徴や役割を認識し、取り組みの軸足がぶれないように時間をかけて意識統一を図ってから、次に進めることが重要」とのアドバイスをいただきました。

次回は、目標設定や具体的な取り組みなどについて話し合う予定です。



【講師】 西村いつきさん

みんなで意見が出し合える

ワークショップ形式で実施!!



3 ふせんの内容をグループ内で発表し、似た意見を整理しました。



2 ゲームの結果をもとに2班に分かれ、まずは各自の想いをふせんに書きました。



1 緊張を解きほぐすため、最初にじゃんけんゲームを実施!



4 その後、2つの班の意見を全員で集約しました。



5 参加者の熱い想いがギュッと詰まった模造紙ができました。

参加者の感想

- 民間と行政、民間の中でも農業者とそれ以外で、立場が違うと見方が違うことがわかった。
- ツルに関する意見が少なく、ここが「ツルの里」ということが、自分たちの中でもまだまだあまり認知されていないのかも。
- それぞれの立場でできること、支援の仕方などがあることがわかった。各者のつながり方を考えていく必要がある。

ツルを見かけたら

お願い



四万十川および中筋川流域で見られるツルは野鳥です。非常に用心深く常にあたりを警戒しています。特に光や物音に敏感で、一度飛び立つと遠くに飛び去ってしまい1羽も見られなくなります。自然のままのツルの生活をおびやかさないように、静かに遠くから見守って下さい。

四万十つるだよりに関するお問合せ

四万十つるの里づくりの会事務局

〒787-0029 高知県四万十市中村小姓町46 中村商工会議所内
tel:0880-34-4333 / fax:0880-34-1451
mail:naka10@cciweb.or.jp

セブン-イレブンみどりの基金

一般財団法人セブン-イレブン記念財団 この会報は、2011年度一般財団法人セブン-イレブン記念財団の助成を受け、発行しています。



四万十つるだより

四万十つるの里づくりの会

人と自然の共生する
「ツルの里」をめざして

Vol.14 ●発行日/平成24年1月31日 ●発行/四万十つるの里づくりの会
<http://www.shimanto-tsuru.com>

※「四万十つるだより」内のツル類の写真の一部は、澤田佳長氏(野生生物環境研究センター所長)よりご提供いただいております。

江ノ村地区で「ツルの自然体験学習会」を開催!

地域の小中学生を対象に、毎年夏と秋に開催している「ツルの自然体験学習会」。平成23年10月31日には、当会が中心となって休耕田を昔のような水田に戻し、ツルのえさ場・ねぐらづくりを行っている江ノ村地区で開催しました。

子どもたちは、鳥類の専門家 澤田佳長先生(野生生物環境研究センター所長)から、江ノ村地区に水田が再生された場合、中筋川に沿って森沢付近まで続く広い水田地域がツルのえさ場として最適な場所となることを学びました。

その後、今季のツルの飛来・越冬を願って、水田の中に置かれた「デコイ」(ツルを呼び寄せるための模型)の土台部分に土をかけ、しっかりと地固めをして、無事設置を完了させました。



当日は最高の秋晴れに



デコイの土台に、シャベルで一匙懸命土をかけました

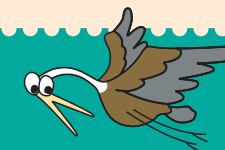
そのほか...

今回も盛りだくさんのメニューで実施しました!

農業(環境にやさしい米づくり)との関わりについての学習



刈った草を粉砕し肥料にすることができる特殊なトラクタによる除草の様子を見学しました。



水生生物の採集&水田への放流



昔ながらの素掘りの水路に生息する生き物を採集し、ツルが飛来した際の餌となるよう、冬季も水を張っている田へ放流しました。